

西田哲学はきわめて難解なうえに晦渋でもある、——
西田哲学の理解のためには、その手引書が必要になる。

西田幾多郎 研究資料集成

全9巻 小坂国継 編・解説



クレス出版

西田幾多郎研究資料集成 全9巻

小坂 国継 編・解説

第1巻	高山岩男集 I	定価 9,000円(税別)	ISBN978-4-87733-698-1
第2巻	高山岩男集 II、務台理作集	定価10,000円(税別)	ISBN978-4-87733-699-8
第3巻	瀧澤克己集	定価10,000円(税別)	ISBN978-4-87733-700-1
第4巻	高坂正顕集	定価12,000円(税別)	ISBN978-4-87733-701-8
第5巻	下村寅太郎集	定価 9,000円(税別)	ISBN978-4-87733-702-5
第6巻	柳田謙十郎集	定価10,000円(税別)	ISBN978-4-87733-703-2
第7巻	宮島 肇集	定価 9,000円(税別)	ISBN978-4-87733-704-9
第8巻	論文集(一)	定価13,000円(税別)	ISBN978-4-87733-705-6
第9巻	論文集(二)	定価13,000円(税別)	ISBN978-4-87733-706-3

A5判/上製クロス装函入 揃定価95,000円(税別)

平成24年10月末日刊行 ISBN978-4-87733-707-0(セット)

既刊 シリーズ日本の宗教学③ 加藤玄智集 全9巻

島蘭進・前川理子・高橋原 監修・解説

第1巻	宗教新論	定価10,000円(税別)	ISBN4-87733-220-0
第2巻	宗教講話、釈迦牟尼仏、心乃衛生	定価11,000円(税別)	ISBN4-87733-221-9
第3巻	我建国思想の本義、神人乃木將軍	定価11,000円(税別)	ISBN4-87733-222-7
第4巻	真修養と新活動	定価 9,500円(税別)	ISBN4-87733-223-5
第5巻	我が国体と神道、日本人の国体信念 ほか	定価13,000円(税別)	ISBN4-87733-224-3
第6巻	神道精義、太神宮参詣記と敬神尊皇	定価10,500円(税別)	ISBN4-87733-225-1
第7巻	神国民の知と行、学校教育と成層圏の宗教	定価13,000円(税別)	ISBN4-87733-226-X
第8巻	知性と宗教 聖雄信仰の成立	定価 9,000円(税別)	ISBN4-87733-228-6
第9巻	論文集、解説	定価 8,000円(税別)	ISBN4-87733-227-8

揃定価95,000円(税別) ISBN4-87733-219-7(セット)

既刊 シリーズ日本の宗教学④ 宗教学の形成過程 全9巻

島蘭進・高橋原・星野靖二 監修・解説

第1巻	宗教進化論	定価11,000円(税別)	ISBN4-87733-338-X
第2巻	弥児氏宗教三論、宗教進化論	定価12,500円(税別)	ISBN4-87733-339-8
第3巻	諸教便覧、神道新論、仏道新論 ほか	定価 8,500円(税別)	ISBN4-87733-340-1
第4巻	世界三聖論、科学的宗教 ほか	定価 9,500円(税別)	ISBN4-87733-341-X
第5巻	宗教研究、比較宗教一斑、宗教の比較的研究	定価11,000円(税別)	ISBN4-87733-342-8
第6巻	倫理宗教時論、現今将来 倫理及宗教	定価10,000円(税別)	ISBN4-87733-343-6
第7巻	宗教哲学 ほか	定価13,000円(税別)	ISBN4-87733-344-4
第8巻	信仰問題 ほか	定価 8,500円(税別)	ISBN4-87733-345-2
第9巻	吾人の宗教 ほか、解説	定価11,000円(税別)	ISBN4-87733-346-0

揃定価95,000円(税別) ISBN4-87733-337-1(セット)

既刊 シリーズ日本の宗教学⑤ 宗教学の諸分野の形成 全9巻

島蘭進・高橋原・星野靖二 監修・解説

第1巻	宗教心理学・宗教哲学(1)	定価11,000円(税別)	ISBN978-4-87733-391-1
第2巻	宗教哲学(2)	定価19,000円(税別)	ISBN978-4-87733-392-8
第3巻	宗教学	定価 9,000円(税別)	ISBN978-4-87733-393-5
第4巻	宗教民族学	定価 9,500円(税別)	ISBN978-4-87733-394-2
第5巻	宗教理論	定価12,000円(税別)	ISBN978-4-87733-395-9
第6巻	宗教問題	定価11,000円(税別)	ISBN978-4-87733-396-6
第7巻	マルクス主義的宗教	定価13,000円(税別)	ISBN978-4-87733-397-3
第8巻	反宗教運動批判	定価16,000円(税別)	ISBN978-4-87733-398-0
第9巻	新宗教研究	定価14,500円(税別)	ISBN978-4-87733-399-7

揃定価115,000円(税別) ISBN978-4-87733-390-4(セット)

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋
☎03-3808-1821 ☎03-3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>

●書店名

 株式会社クレス出版

西田幾多郎（一八七〇—一九四五）は近代日本の代表的な哲学者である。その思想は一般に「西田哲学」という呼称でもって親しまれている。「日本の哲学は」と聞かれれば、誰もがきまって西田哲学と答えるように、西田哲学は日本哲学の別名といってもよいほどの重要な位置を占めてきた。実際、それは従来の西洋的思惟様式とはまったく異なった東洋的・仏教的伝統にもとづいた思考方法であった。

西田の処女作『善の研究』は明治四四年（満四〇歳）の作であるが、同書のなかで、大乘仏教とくに禅仏教に深く根ざした土着的な思想が、西洋哲学の概念的枠組みをもって、また西洋近代の思想的潮流に沿って展開されている。それが「純粹経験」説であり、西田哲学の基本となったものである。以後の思想は、この純粹経験の不断の深化であり、論理化であり、体系化であった。そして西田は自分の根本思想を、「自覚」とか「場所」とか「絶対無」とか「絶対矛盾的自己同一」とかいった数々の独特な言葉でもって表現しようとした。それは、従来、西洋哲学にはなかった世界観の最初の提示であったから、その概念化にはすこぶる困難がともなった。西田がまったく独自の用語を頻繁に用いたゆえんである。今日では、西田哲学とその流れを汲む京都学派の哲学はようやく哲学史のなかで市民権を獲得し、哲学史は実質的に、これまでの西洋の、哲学史から世界の、哲学史へと発展していきこうとしているように思われる。またそれだけに、西田哲学の正確な理解はわれわれ日本人にとって緊要な課題であるといえるだろう。

『西田幾多郎研究資料集成』（全9巻）は西田幾多郎の著作集ではない。西田幾多郎に関する研究資料の集成である。西田哲学はきわめて難解な上に晦渋でもあるので、原典のみによってはなかなかその全容を知ることが困難である。西田哲学の理解のためには、良質の手引書が必要になる。本企画は、そうした要求に応えて、これまでの西田幾多郎研究資料の集成を試みたものである。

また、西田哲学に関する主要な研究論文四〇数篇を併せて収録した。これでもって基本的な文献を一望のもとに俯瞰することができるわけで、読者にとつてまことに便利であろう。本企画が西田幾多郎研究のさらなる進展の一助となることを願つてやまない。

第5巻 下村寅太郎集

1 草案

『善の研究』はその序にある如く、先生が三十代の十年間を送られた金澤の高等學校での講義の草案であるが、しかしそれは必ずしも講義のための草案ではない。あくまで先生自身の独自の思想體系である。著者自身の主観を直接に前面に押し出さない客観的な教科書ではない。先生は唯々専ら思索し思惟したことを談るのみである。それ以外に別に教へようとはされなかつた。この態度は教師としても、著者としても、後年に到るまで、否、最後まで、先生に於ては一貫して渝らない性格であつた。これがよき教師、よき著者であるか否かは勿論別の問題である。しかし先生はこれ以外にはあり得なかつた。しかし少くとも哲學教師としては、最もよき、或は最も偉大な教師であつたのではなからうか。先生程自己自身のために思惟しながら、先生程多くの他人を begreifen した人はないであらう。『善の研究』も高等學校の學生のための講義ではあつたが、しかしそれよりも先ず先生自身の思惟であつた。寧ろ先生自身の思惟以外のものではなかつた。

善の研究の成立

五九

第6巻 柳田謙十郎集

第二編 無の自覺の倫理

第一章 場所の論理

カント哲學を批判期と先批判期とに分ける様な意味で西田哲學を前後の二大時期に區別するとすれば、「働くものから見るものへ」の主論文「場所」が其の境界線を引くものであることにいつては何人も異論のない所であらう。實に西田哲學は此の論文を樞軸として一の異常なる轉回を成就すると共に、之によつて其の後の無限に豊かなる發展の礎地を造ることとなつたのである。しかし此の轉回は西田哲學的思惟の生々たる自己發展的行程にとつては、何らの奇蹟でもなければ偶然でもない。恰も卵から雛への轉化が外から見ればいかにも突然の變化でもあり異常の出來事でもあるかの如く思はれるにしても、其處には何人によつても動かすことの出來ない内的必然性がある如く、西田哲學初期の諸論文をばその思想の内面的發展の順序を追うて注意深く觀察し、

西田幾多郎研究資料集成 全9巻

第1巻

高山岩男集 I
西田哲学（昭和10年、岩波書店）
自然界（判断的一般者の世界）、意識界（自覚的一般者の世界）、事実界（行為的一般者の世界）、人格界（無の一般者の世界）、現実界（弁証法的な一般者の世界）、哲学

第2巻

高山岩男集 II
純西田哲学（昭和15年、岩波書店）
現実と哲学、絶対矛盾的自己同一、行為的直観、歴史的世界、作られたものから作るものへ、認識の問題

務台理作集
西田哲学（昭和24年、弘文堂）

場所的論理―絶対弁証法（絶対的矛盾、場所、行為的直観とその否定、場所的論理）、個の哲学（個の問題、個と理性、個と意志）
表現的世界の論理、場所的論理の基本概念、西田哲学に於ける宗教的なもの

第3巻

瀧澤克己集

瀧澤克己著作集 第一巻（昭和47年、法蔵館）
西田哲学の根本問題（西田哲学の根本的諸概念、後期西田哲学の發展、西田哲学の性格とその根柢、一般概念と個物（例、個物及び個性、西田哲学に於けるノエシスとノエマとの関係について、田辺博士に於ける行為の立場、三木清氏に於ける「事実」と「存在」、ハイデッガーに於けるダーザインと哲学の使命及び限界、西田哲学と田辺・高橋博士の哲学、西田哲学に於ける宗教の問題

第4巻

高坂正顕集

西田幾多郎先生の追憶（昭和23年、国立書院）
先生の書齋、先生の思索的態度、先生から伺つた話、西田哲学のむつかしさと魅力について、絶対矛盾的自己同一、哲学論文集、西田哲学の方法、西田哲学と論理、西田哲学についての「影」との対話、「意識の問題」と先生の晩年の思想、先生と現代の問題、先生と芸術、先生の趣味、字の氣村の記
西田哲学と田辺哲学（昭和24年、黎明書房）
西田哲学の体系、社会と国家、宗教の世界観、田辺哲学の出発点、田辺哲学の成立、種の論理の由来、絶対媒介の論理、「懺悔道としての哲学」以後、行為的直観
宗教と文化と哲学、「場所」の成立、日本的なるもの、絶対矛盾的自己同一の世界、働くものと見るものと知るもの、西田幾多郎博士と「世界新秩序の原理」の由来

第5巻

下村寅太郎集

若き西田幾多郎先生―『善の研究』成立前後（昭和22年、人文書林）
印象、若き日、教師、「善の研究」の成立、晩年の先生、「善の研究」欄註
西田哲学への道（昭和26年、社会思想研究会出版部）
西田哲学について、西田哲学の歴史の意義について、西田先生の面影
弁証法的世界の数学的形態―西田哲学の科学哲学への寄与―

第6巻

柳田謙十郎集

実践哲学としての西田哲学（昭和14年、弘文堂書房）
自覚的意志の倫理（西田哲学の発祥、絶対意志の自覚、道德的意志）、無の自覚的倫理（場所的論理、無の行為的自覚）、歴史的創造の倫理（弁証法的世界、歴史的創造）
西田哲学を生み出したもの

第7巻

宮島 肇集

明治的思想家像の形成
―西田哲学成立史と思想史方法論の問題―（昭和35年、未來社）
西田哲学の発想と明治絶対主義、西田哲学の発想史、「善の研究」発想の諸条件、明治文学史の展開過程と西田哲学、同時代的赤門派三思想家の対比的考察、西田哲学成立史の研究と思想史方法論の問題
西田哲学と歴史的世界、「純粹経験説」の発想に寄与した諸思想

第8巻

論文集(一)

意識現象の事実と其意味（高橋里美、西田哲学の方法について（左右田喜一郎）、西田先生の教を仰ぐ（田辺元）、「無の論理」は論理であるか？（戸坂潤）、西田哲学について（高橋里美）、西田哲学の性格について（三木清）、西田哲学の根本性格（古在由重）、西田哲学と歴史の問題（天野貞祐）、「善の研究」の生まれるまで（鳥谷俊三）、場所とコウラ（山内得立）、西田哲学の立場（永田広志）、西田哲学の論理（山内得立）、場所的弁証法（船山信一）、西田哲学と禪（久松真一）、西田哲学批判（牧野周吉）、西田哲学と神学の問題、西田哲学の弁証法（北森嘉蔵）、西田哲学批判、西田哲学の根本性格（竹内良知）、西田哲学批判（岩崎武雄）

第9巻

論文集(二)

西田幾多郎における東西の綜合（野田又夫）、日本型觀念論の大成者―西田幾多郎（船山信一）、西田哲学の形成とその展開（古田光）、西田哲学の現在の意義（鈴木亨）、西田幾多郎の思想（上山春平）、西田哲学（三宅剛一）、場所的論理と宗教的世界観（上田閑照）、実存思想としての西田哲学（鈴木亨）、西田哲学研究（河合栄治郎）、西田哲学の基本思想（秋月龍琅）、哲学者の神（松村克己）、西田哲学「克服」のために（梯明秀）、西田哲学と宗教体験（門脇佳吉）、西田幾多郎の身体観をめぐって（湯浅泰雄）、昭和六年頃の西田哲学野田又夫、逆対応と平常底―西田哲学の宗教理解について（上田閑照）、西田哲学における場所の思想、西田哲学における逆対応の問題（阿部正雄）、陽明学と西田哲学（湯浅泰雄）、西田哲学とキリスト教（北森嘉蔵）、問題群としての（西田幾多郎）、現代思想と西田幾多郎（中村雄二郎）